

豚肉トレーサビリティに関する アンケート報告書

【スーパーマーケット編】

「豚肉の生産情報の表示、記録・保管等に関する調査」

2013年3月

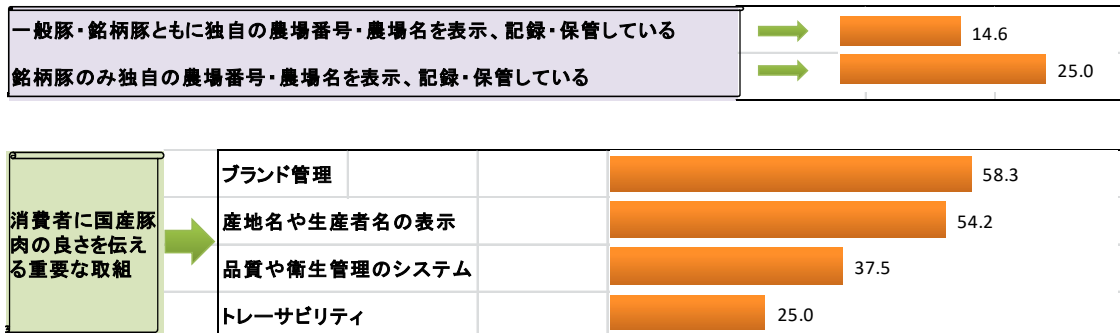
一般社団法人 日本養豚協会

要 約

スーパーマーケットにおける豚肉の記録保管の状況

豚肉の精肉加工時において、「部位名」、「仕入先名」、「品名」、「数量」、「加工日」の情報は表示・記録保管の割合が高い。しかし、農場番号・農場名の記録保管の割合については、銘柄豚のみが25%となっており、難しい現状にあることがわかる。

消費者に国産豚肉の良さを伝える取組としては、トレーサビリティよりも「ブランド管理」、「産地名や生産者名の表示」、「品質や衛生管理のシステム」を重視していることがわかる。



□ 回答企業の属性

1 消費者への情報提供と国産豚肉の理解促進

の課題について

2 農場番号・農場名の表示、記録保管の実態

と今後の可能性について

3 豚部分肉の受入・精肉加工において記録管理、

伝達している情報

□ アンケート実施時期	平成24年10月
□ 調査の対象	全国のスーパーマーケット
□ 発送数	429社
□ 有効回収数	48社
□ 回収率	11.2%

□ 回答企業の属性

➤ 回答企業の業態

回答企業 48 社の業態は、ほとんどが「食品スーパー」となっている。
なお、「その他」は生協や JA の店舗である。

図 3-1 回答企業の業態



表 3-1 回答企業の業態

	回答数	計	総合スーパー	食品スーパー	その他
	社	%	%	%	%
計	48	100.0	2.1	93.8	4.2

1 消費者への情報提供と国産豚肉の理解促進の課題について

(1) 消費者への生産者の情報提供

スーパーマーケットにおいて消費者への生産者情報の提供は、「店頭やパックにしている」、「求められたときに情報提供できるように管理・保管している」を併せて過半を超え、これらの方法で情報を提供しているものの、「していない」が 4 割強となっている。

図 3-2 消費者への生産者の情報提供について

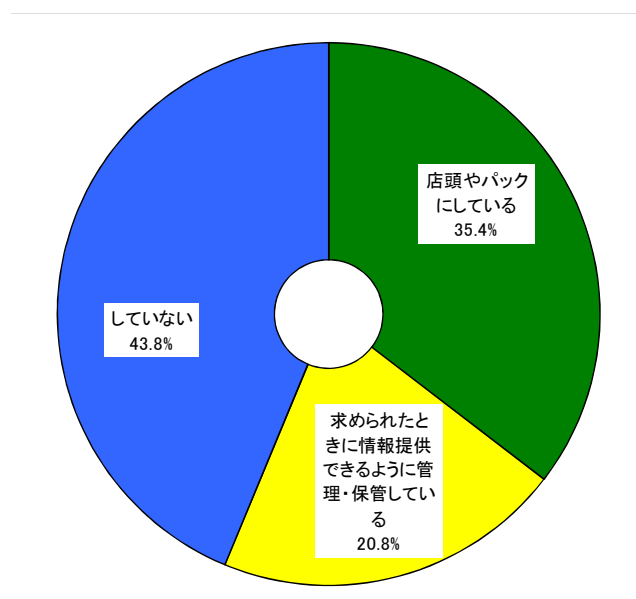


表 3-2 消費者への生産者の情報提供について

	回答数	計	店頭やパックにしている	求められたときに情報提供できるように管理・保管している	していない
	社	%	%	%	%
計	48	100.0	35.4	20.8	43.8

(1) 消費者に国産豚肉の良さを伝えるための重要な取組

スーパーマーケットにおいて消費者に国産豚肉の良さを伝えるための重要な取組は、「ブランド管理」、「産地名や生産者名の表示」が上位2つとなっており、以下、「品質や衛生管理のシステム」、「トレーサビリティ」となっている。トレーサビリティは消費者調査で明らかなように消費者の認知度が低く、売場への要望が少ないものと考えられる。

図 3-3 消費者に国産豚肉の良さを伝えるための重要な取組について

注: 複数回答

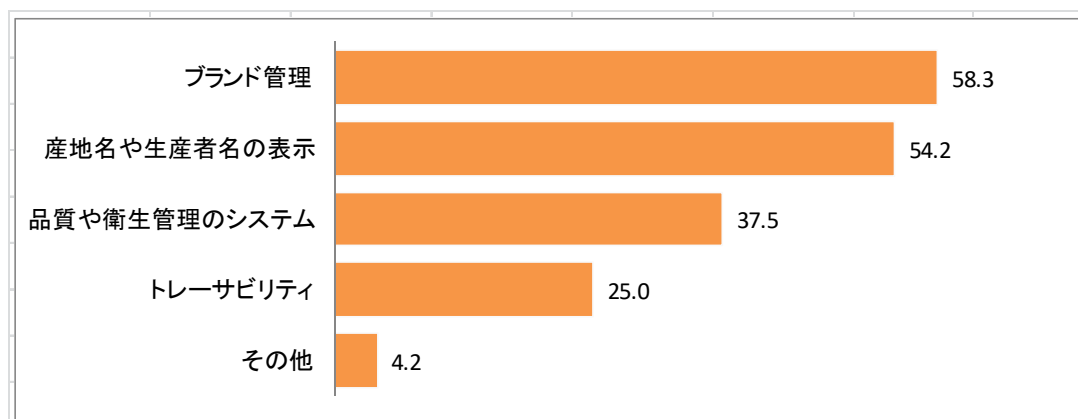


表 3-3 消費者に国産豚肉の良さを伝えるための重要な取組について

注: 複数回答

	回答数	ブランド管理	産地名や生産者名の表示	品質や衛生管理のシステム	トレーサビリティ	その他
	社	%	%	%	%	%
計	48	58.3	54.2	37.5	25.0	4.2

2 農場番号・農場名の表示、記録保管の実態と今後の可能性について

(1) 農場番号・農場名の表示、記録保管の実態

スーパーマーケットにおける農場番号・農場名の表示、記録保管の実態は、「表示、記録・保管は困難」が4割強で最も高かったが、「銘柄豚のみ独自の農場番号・農場名を表示、記録・保管している」、「一般豚・銘柄豚ともに独自の農場番号・農場名を表示、記録・保管している」と銘柄豚と一般豚の一部を表示、記録・保管しているのが併せて4割弱。さらに、「現行のシステムに農場番号・農場名を組み入れ、表示、記録・保管は可能」、「生産情報の提供は必要、農場番号・農場名の表示、記録・保管システム構築に協力可能」と表示や記録・保管の可能性も併せて16.6%となっている。

図 3-4 農場番号・農場名の表示、記録保管について

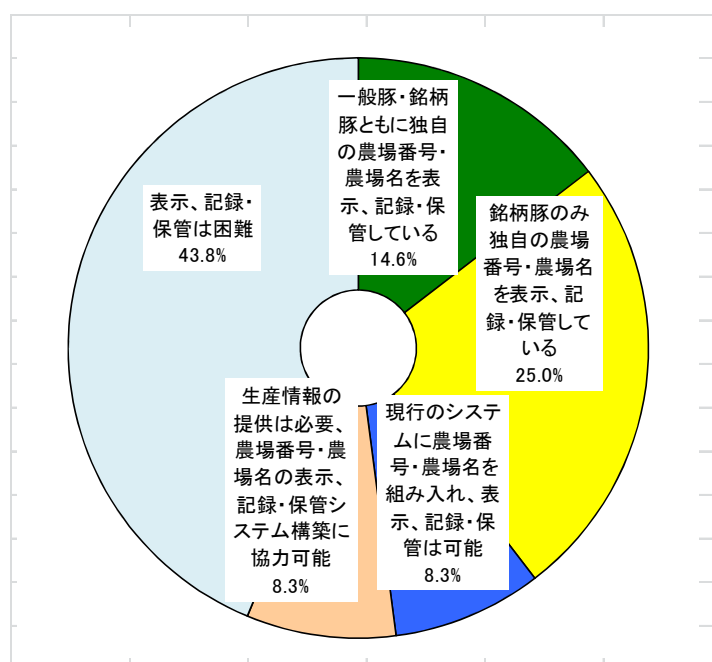


表 3-4 農場番号・農場名の表示、記録保管について

	回答数	ブランド管理	一般豚・銘柄豚ともに独自の農場番号・農場名を表示、記録・保管している	銘柄豚のみ独自の農場番号・農場名を表示、記録・保管している	現行のシステムに農場番号・農場名を組み入れ、表示、記録・保管は可能	生産情報の提供は必要、農場番号・農場名の表示、記録・保管システム構築に協力可能	以前は表示、記録・保管していたが止めた	表示、記録・保管は困難
	社	%	%	%	%	%	%	%
計	48	58.3	14.6	25.0	8.3	8.3	0.0	43.8

➤ 一般豚・銘柄豚における独自の農場番号・農場名を表示、記録・保管の実態

一般豚・銘柄豚ともに独自の農場番号・農場名を表示、記録・保管していると回答のうち、表示、記録・保管の内訳は、「記録・保管している」が7割強。「表示している」が4割強であった。

表 3-5 「一般豚・銘柄豚」における独自の農場番号・農場名を表示、記録・保管について 注：複数回答

		回答数	表示している	記録・保管している
		社	%	%
計		7	42.9	71.4

➤ 銘柄豚における独自の農場番号・農場名を表示、記録・保管の実態

銘柄豚のみ独自の農場番号・農場名を表示、記録・保管していると回答のうち、表示、記録・保管の内訳は、「表示している」が8割強で、「記録・保管している」が過半であった。

表 3-6 「銘柄豚」における独自の農場番号・農場名を表示、記録・保管について 注：複数回答

		回答数	表示している	記録・保管している
		社	%	%
計		12	83.3	50.0

(2) 農場番号を豚肉パックへ表示、記録・保管することで、検討すべき問題点と解決策

農場番号を豚肉パックへ表示、記録・保管することで、検討すべき問題点と解決策は以下のとおりである。特にコストに関する記述が多いのが特徴となっている。

表 3-6 農場番号を豚肉パックへ表示、記録・保管することで、検討すべき問題点と解決策

問題点	解決策
顧客が、農場番号から簡単に情報を得ることが困難である	牛肉同様のトレーサビリティの仕組み、インターネットでの情報開示
パーツ対応の豚肉&他メーカーよりの入荷により、管理が困難。	—
メーカー・農場名が複数あるので難しい。	—
顧客から県産地については聞かれることがあるが、生産者・農場についての質問はない。ブランドとして打ち出すのであれば情報は必要である	—
牛肉同様な「トレーサビリティ」の表示を組み込むと、作業工程が増え商品の提供の遅れが発生する可能性がある	表示の際に、牛肉同様な手順ではなく、さらに簡略化された表示手順があれば、商品の提供にも支障を出さずに済むと考える
本当に顧客への伝達が必要なのか？疑問である。複数の産地・仕入れ先から調達しているので、記載・記録は困難である。伝達する上でのコストと効果はどうか？	—
現状では、農場番号を記載する仕組みがない。コストが発生する。	—
現実問題として、経費をかけて消費者へ伝達してもそれほどのメリットはないと考えられる（経費がかかりすぎる）。	—
現状も農場番号（ロット番号）は付けているが、チラシ等販売量が多くなった時は、他の豚肉とのミックスの可能性があるため、番号はブランドシールは付けずに「千葉県産豚肉」で売っている	パーツ、その他の豚が入る場合は「県産」で販売する
不特定多数の『国産豚（通常豚）』の場合、と畜段階で「仕分け」作業自体困難を極める（銘柄豚のように頭数が少なくないため）。牛肉に比べ取扱量が多いため、管理が困難である	解決策は現状、思い浮かばない
1日に産地だけでも1～3産地から納品しており、バックヤードで加工している。表示の誤認で違反になるのが怖い。	黒板などで表示するなら可能であると考え
トレサビは必要ないと判断する。牛のトレサビが事実上全ての商品（カレー用やこま切れ・切り落とし・内臓肉など）をカバーしていないのに、個体の小さい豚肉ではなおさら運用は不可能と考える。実際、牛のトレサビを一般の消費者は見えていない。恐らく、関心あるのはこの業界の人間がほとんどである。出生や生い立ちを気にする顧客は、銘柄豚を購入し、それが売場の中で、一つの選択肢（差別化）になっている。また、システムを新たに組み込むことは小売側に更なる負担を強いるものであり、それによるメリットはあまりにも少なすぎる。よって豚トレサビについては賛成できない。	—
枝肉はできて、パーツ肉は大変である	—
牛肉同様、誰も番号など見ないし、調べない。番号記載の必要性に疑問である。パック毎の農場を調べる意味がわからない	流通している国産豚肉全てが安心・安全であることのアピールの方が大事。
豚肉の場合、販売数量が多いことと、パーツ対応など仕入れ先が変わる時は農場も変わる。その場合、店舗で別の農場の番号を間違えて記載する可能性がある。不正表示のリスクがある	農場の一本化
農場番号が顧客に理解してもらえないか疑問である	顧客のトレーサビリティの関心は牛肉が多数である。豚肉は今が必要と思わない。

続き

問題点	解決策
PC加工で、大量の原料を使用するため、複数の農場からの仕入れが考えられる。そのような状況の中で、区分けして管理ができるか自信がない。	一農場からの一括仕入れの実施
単品・パーツで取り扱っているため、特売になるとかなりの数の農場番号になり、パック表示に誤りや時間ロスが生まれる。	—
国産豚肉の記載は現時点において、消費者・販売者・生産者・協会どのレベルで必要性を感じているかわからない	複雑すぎる旧態流通システムの簡略化が必要(内臓含む)である
記載ミスが出るのが怖い	対策は無理と考える
現在、鳥根県産豚肉では、トレーサビリティを実施中である。	—
センターでの負荷と、システムの投資が必要である	投資対効果のテストをして、効果があれば導入する
豚肉を牛肉のように細かく整理すると、販売数・重量の多さから作業的・システムの両方にも間違いが発生する可能性が高い	小売側が特定する産地・銘柄のみ農場で管理して、通常豚との住み分けをし、管理していく
農場生産者にもまだ十分浸透していないことと、プリンターシールに細かく記入しすぎ、顧客が一目見て把握しにくい状態になりつつある	プリンターシール等に記入する内容の見直しが必要である
店内作業の繁雑さと農場変更時の表示変更によるミス発生リスクがある	同一生産者・農場の商品が常に仕入れできることである
細かい管理は事故の可能性もあるために、情報開示もよく考慮の上に行うべきである	—
値付機のシステム切替えと顧客の意識レベルの向上が課題である	法律にならなくてはできないのではないと思う
部内で一番の点数構成の高い豚肉での農場管理には無理がある。部位重量の低い豚肉での農場番号表示は、小さな農家の支援にはならない。	—
一般豚は様々な産地から仕入れているため、管理は困難である。頭数が多いため管理は難しい。	産地農場の表示が店頭であれば農場番号はいらない。牛肉同様にトレサビシステムを構築すればできると思うが、システム、管理、コスト面でも難しい
記載ミスによる情報の誤りが顧客への誤解・不信となるのが怖い	人材の育成
①記載する農場が多すぎる。②店舗でのインストア加工では間違いが発生してしまう。	原料の統一が必要である
一般豚肉は仕入面では安定した品質の数量を確保し、販売面では特売対応となっている。こういった状況では「県産地」を絞って仕入・販売できない	銘柄豚のようにトレースすることは厳しい。数量が少なく、セットだけの取扱いだけであれば可能性はある。現状は解決策がなく、セットメインの仕入にして産地表示を検討中である。
生産者全ての加入が必要ではないか	—
多産地・多農場になることが多く、消費者への伝達は難しい	銘柄豚のみなら対応可能である
システムコスト、管理・運営コスト、農場での管理・運営が煩雑である	農場、PC、店舗での管理システムを確立することである。QRコードでの情報提供も必要である

3 豚部分肉の受入・精肉加工において記録管理、伝達している情報

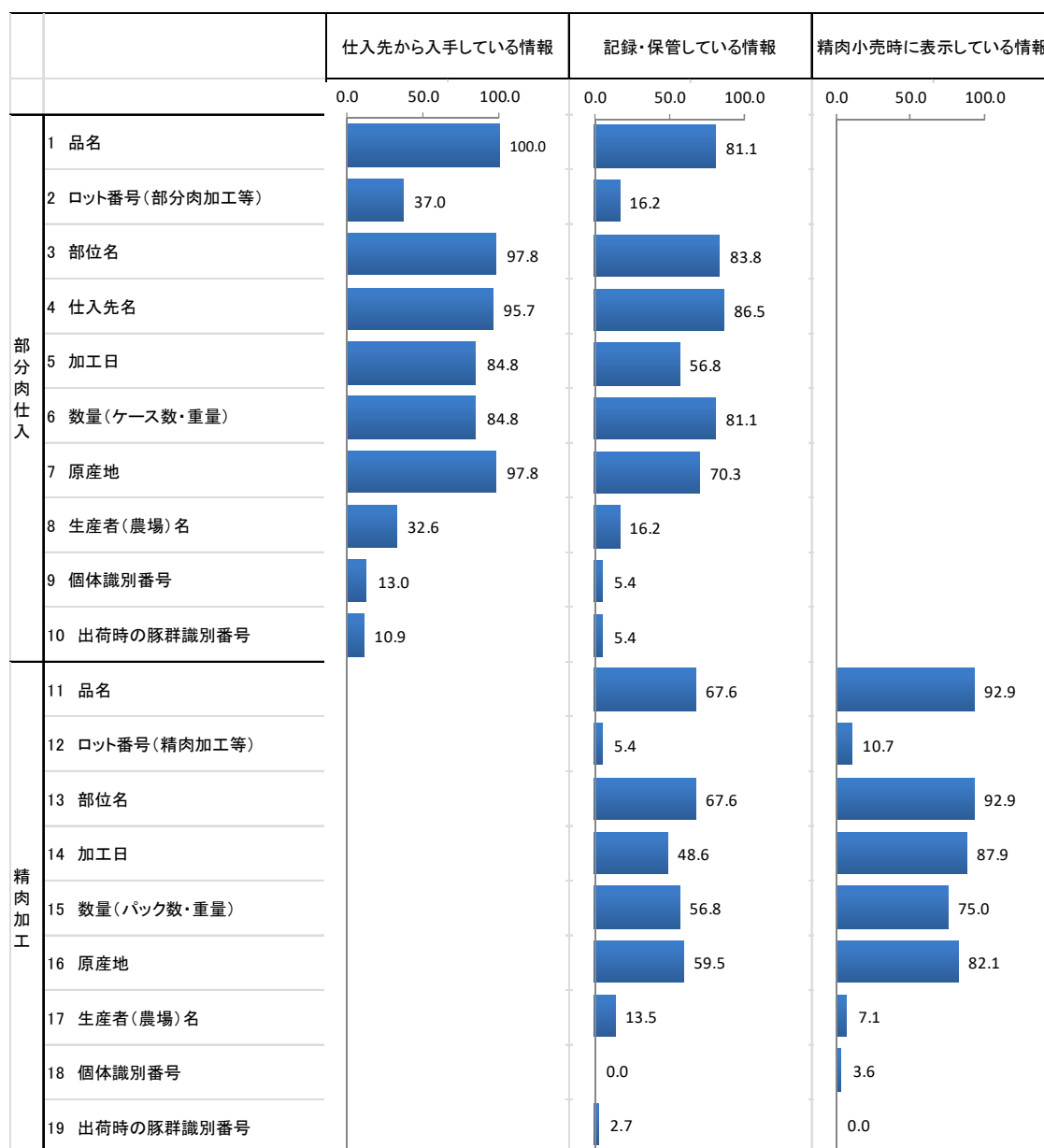
➤ 部分肉仕入

部分肉仕入段階において「仕入先名」、「部位名」、「品名」、「数量」、「原産地名」等の情報は、記録・保管している割合が高い。

➤ 精肉加工

部分肉仕入段階において「品名」、「部位名」、「原産地名」、「数量」等の情報が記録・保管している割合が高い。なお、消費者に伝達される生産者（農場）名は1割未満に留まる。

図 3-5 豚部分肉の受入・精肉加工において記録管理、伝達している情報



注：調査はアンケートにより、各項目に○印をつける方法で実施したが、記入様式の煩雑さから記入ミスなども相まって、一部実態と異なることもあるので留意していただきたい。ひとつの目安として参考にされたい。